

世界銀行債券ファンド（毎月分配型） ＜愛称 ワールドサポーター＞

追加型投信／海外／債券

交付運用報告書

第191期（決算日2023年5月12日） 第192期（決算日2023年6月12日） 第193期（決算日2023年7月12日）
第194期（決算日2023年8月14日） 第195期（決算日2023年9月12日） 第196期（決算日2023年10月12日）

作成対象期間（2023年4月13日～2023年10月12日）

| 第196期末（2023年10月12日） | |
|---------------------|----------|
| 基準価額 | 2,558円 |
| 純資産総額 | 9,823百万円 |
| 第191期～第196期 | |
| 騰落率 | 13.1% |
| 分配金（税込み）合計 | 30円 |

（注）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス⇒ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示⇒運用報告書タブを選択⇒該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「世界銀行債券ファンド（毎月分配型）」は、2023年10月12日に第196期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、世界銀行が発行する新興国通貨建て債券を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっておりま

した。ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<940860>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

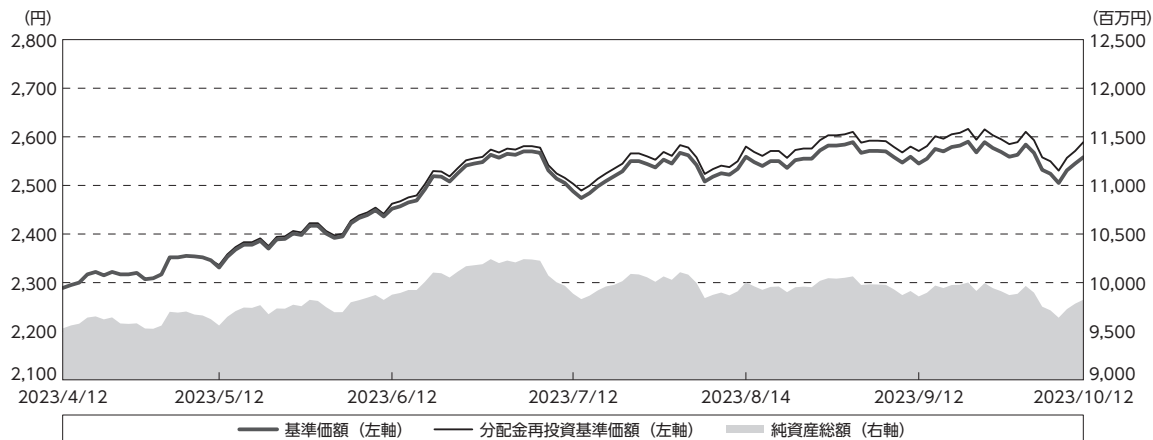
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2023年4月13日～2023年10月12日)



第191期首：2,289円

第196期末：2,558円 (既払分配金 (税込み)：30円)

騰落率：13.1% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首 (2023年4月12日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、世界銀行が発行する新興国通貨建て債券を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・高利回りの新興国通貨建て世界銀行債券からの利息収入を得たこと。
- ・コロンビアペソ、メキシコペソ、インドルピー、ポーランドズロチなど一部の組入通貨が対円で上昇したこと。

＜値下がり要因＞

- ・チリペソなど一部の組入通貨が対円で下落したこと。
- ・信用スプレッド（利回り格差）が拡大したこと。

1 万口当たりの費用明細

(2023年4月13日～2023年10月12日)

| 項 目 | 第191期～第196期 | | 項 目 の 概 要 |
|------------------------|-------------|---------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信託報酬 | 12 | 0.495 | (a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 |
| （投信会社） | (4) | (0.149) | 委託した資金の運用の対価 |
| （販売会社） | (8) | (0.330) | 運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価 |
| （受託会社） | (0) | (0.016) | 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| (b) その他費用 | 0 | 0.019 | (b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数 |
| （監査費用） | (0) | (0.002) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| （印刷費用等） | (0) | (0.017) | 印刷費用等は、法定開示資料の印刷に係る費用など |
| （その他） | (0) | (0.000) | その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用 |
| 合 計 | 12 | 0.514 | |
| 作成期間の平均基準価額は、2,496円です。 | | | |

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

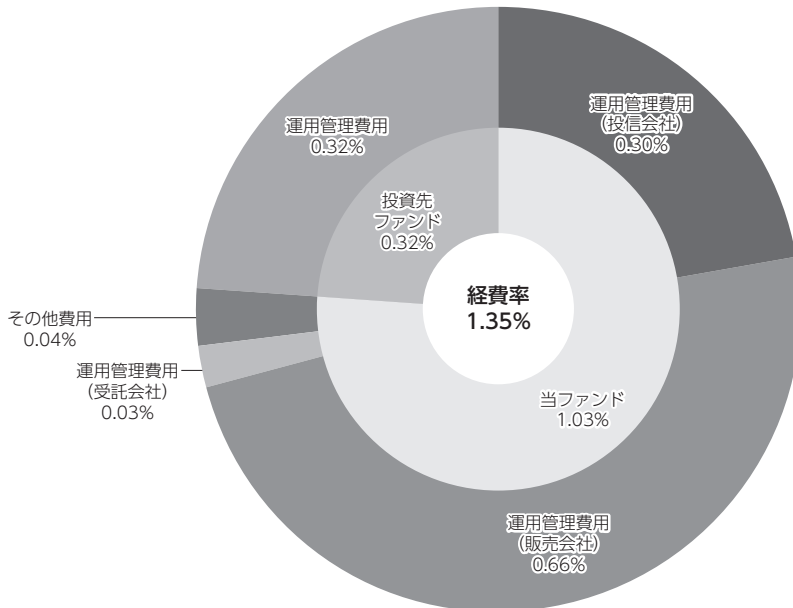
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

（参考情報）

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.35%です。



(単位:%)

| | |
|--------------------|------|
| 経費率(①+②) | 1.35 |
| ①当ファンドの費用の比率 | 1.03 |
| ②投資先ファンドの運用管理費用の比率 | 0.32 |

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「1万口当たりの費用明細」にてご確認いただけますが、期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

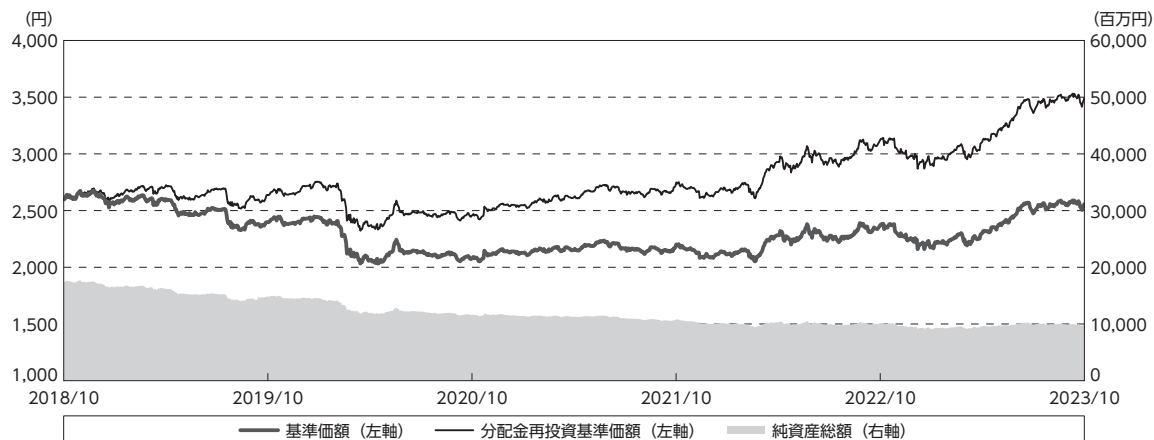
(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2018年10月12日～2023年10月12日）



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、2018年10月12日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

| | 2018年10月12日 決算日 | 2019年10月15日 決算日 | 2020年10月12日 決算日 | 2021年10月12日 決算日 | 2022年10月12日 決算日 | 2023年10月12日 決算日 |
|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 基準価額 (円) | 2,598 | 2,397 | 2,099 | 2,142 | 2,336 | 2,558 |
| 期間分配金合計 (税込み) (円) | — | 240 | 160 | 120 | 120 | 85 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | — | 1.5 | △ 6.0 | 7.9 | 15.1 | 13.6 |
| 純資産総額 (百万円) | 17,396 | 14,819 | 11,721 | 10,552 | 9,989 | 9,823 |

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

（2023年4月13日～2023年10月12日）

（債券市況）

新興国市場は、中国のゼロコロナ政策によって経済成長が抑制されていたものの、同国が2022年12月に政策を転換すると、2023年初めに追い風を受けました。この転換は、中国共産党の第20回全国代表大会とその後の全国的な抗議活動後に実施されました。しかし、発表される指標からは、中国の景気回復が概して失速しているとの見方が強まっており、消費者の行動が落ち込んでいるほか、住宅用不動産市場が低迷しています。当局は、金融・財政の両面で様々な景気刺激策を実施する用意があると表明しているものの、現在のところ断片的で、動きがやや緩慢であるように思われます。中国以外では、複数の新興国の中央銀行が積極的な利上げを実施し、金融政策のスタンスを引き締めました。これによりディスインフレ環境が生まれており、中南米や東ヨーロッパを中心とする複数の中央銀行が利下げを実施しました。

ロシアによるウクライナへの侵攻から1年半以上が経過しましたが、地政学的リスクは依然として欧州新興国市場の資産に対する懸念材料となっています。しかし、冬の気候が例年よりも温暖であったことに加えて、大量の液化天然ガス（LNG）を含む代替エネルギー供給を2022年中に大量に確保したことによって、欧州における天然ガス供給の見通しは改善したとみられます。こうした状況を背景に、欧州の天然ガス価格は2022年の夏場のピーク水準から大幅に下落しています。しかし、足元では、石油輸出国機構（OPEC）加盟国とロシアなど非加盟の産油国からなるOPECプラスによる協調減産の継続に加えて、サウジアラビアとロシアによる追加的な自主減産の継続を背景に原油価格が急上昇しており、コモディティ輸入国ではディスインフレの進行が困難になるほか、自国通貨の下落に直面する可能性があります。

（国内短期金利市況）

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.01%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.03%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.30%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.21%近辺で期間末を迎えました。

当ファンドのポートフォリオ

（2023年4月13日～2023年10月12日）

（当ファンド）

当ファンドは、収益性を追求するため、「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

（ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA）

当ファンドでは、新興国通貨建ての世界銀行の短期債券を中心に分散投資を行ないました。期間末時点では、メキシコペソ、インドネシアルピア、ポーランドズロチ、ブラジルレアル、インドルピー、南アフリカランド、チリペソ、中国人民元、コロンビアペソなどの通貨建ての世界銀行債券に投資を行なっています。期間中、ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）面の追い風が強く、インカム創出力が魅力的な水準にあるとみられる通貨の投資比率を高位に維持しました。

期間中に、ポーランドズロチの投資比率を引き上げました。地域のエネルギー状況が回復しインフレ動向が改善して、国際収支全般がより良好となりました。また、長期にわたる右派政権が再選を逃す可能性があるとともに、野党連合は市場重視型の姿勢を強めるとみられることから、議会選挙を受けて上振れる可能性があるかとみています。インドルピーについては、多くの多国籍企業がサプライチェーン（供給網）の分散を図っており、インドは競争力のある賃金、労働力の増加、力強い生産性の伸びに支えられ、テクノロジーセクター内で主に恩恵を受ける立場にあるとみられることから、中期的にポジティブな見方を維持しています。また、JPモルガンの新興国債券指数「GBI-EMインデックス」にインドが採用されることにより資金が流入するとみられます。こうした環境下、当ファンドでは現地通貨建て債券市場が力強く上昇するとみて、インドの投資配分をさらに引き上げました。一方、メキシコペソについては、ポジションの削減を決定しました。当ファンドでは、同通貨のこれまでの上昇は持続不可能とみており、2024年に予想されているメキシコの中央銀行の緩和サイクルが開始される場合は、幾分調整する可能性があります。チリペソについても、中央銀行による積極的な金融緩和サイクルを受けて、かつて同通貨が提供していた利回りの下支えが弱まり、チリペソ自体に下落圧力が掛かるとみられたことから、配分を引き下げました。

（マネー・オープン・マザーファンド）

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コール・ローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2023年4月13日～2023年10月12日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

(2023年4月13日～2023年10月12日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

| 項 目 | 第191期 | 第192期 | 第193期 | 第194期 | 第195期 | 第196期 |
|--------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------------|
| | 2023年4月13日 ～2023年5月12日 | 2023年5月13日 ～2023年6月12日 | 2023年6月13日 ～2023年7月12日 | 2023年7月13日 ～2023年8月14日 | 2023年8月15日 ～2023年9月12日 | 2023年9月13日 ～2023年10月12日 |
| 当期分配金 (対基準価額比率) | 5 0.214 % | 5 0.204 % | 5 0.201 % | 5 0.195 % | 5 0.196 % | 5 0.195 % |
| 当期の収益 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 当期の収益以外 | — | — | — | — | — | — |
| 翌期繰越分配対象額 | 71 | 74 | 76 | 79 | 80 | 82 |

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

（ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA）

世界的に経済成長が鈍化している状況下で、新興国市場の相対的に高い経済成長が、依然として投資家を引き付ける要因となる可能性が高いとみています。コストプッシュインフレ（原材料費や賃金の急激な上昇により引き起こされる物価上昇）圧力の上昇を受けて、新興国の中央銀行の多くが積極的に金融政策の正常化を続けていますが、先進国の中央銀行と異なり予防的な措置となっています。こうした動きにより、新興国市場ではインフレ期待が引き続き安定的に推移し、先進国市場との実質金利差が魅力的な水準になるとみられます。また、新興国通貨のバリュエーション（価値評価）は引き続き魅力的であると考えています。

引き続き、新興国通貨建ての世界銀行の短期債券に分散投資を行なっていく方針です。原則として、中・長期的に高いリターンが予想される主要新興国の投資比率を高位に維持していく方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

（マネー・オープン・マザーファンド）

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

お知らせ

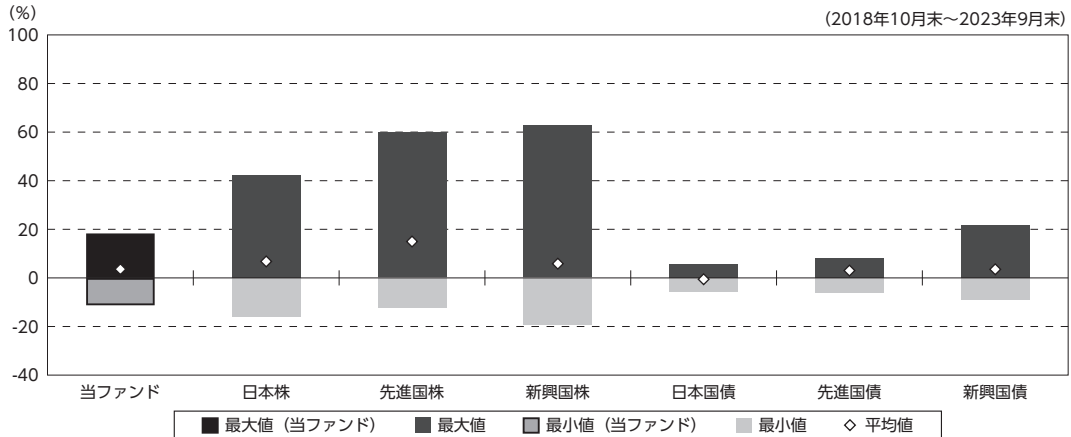
2023年4月13日から2023年10月12日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

| | |
|--------|--|
| 商品分類 | 追加型投信／海外／債券 |
| 信託期間 | 2007年6月21日から原則無期限です。 |
| 運用方針 | 主として投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）に投資を行ない、安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。 |
| 主要投資対象 | 「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」 受益証券 「マネー・オープン・マザーファンド」 受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。 |
| 運用方法 | 主として、世界銀行が発行する新興国通貨建て債券を主な投資対象とすることで、安定的な収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。各通貨への投資比率は、各国の経済状況、金利水準、市場の流動性などにに基づき決定します。組み入れる債券は、原則として残存期間が3年以下（変動利付債の場合は10年以下）のものとし、ファンドの流動性を確保するため、一部米ドルやユーロなどの主要国通貨建ての債券に投資することがあります。 |
| 分配方針 | 第1計算期は収益分配を行ないません。第2計算期以降、毎決算時、基準価額水準などを勘案して、原則として安定した分配を継続的行なうことをめざします。 |

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

| | 当ファンド | 日本株 | 先進国株 | 新興国株 | 日本国債 | 先進国債 | 新興国債 |
|-----|-------|-------|-------|-------|------|------|------|
| 最大値 | 18.3 | 42.1 | 59.8 | 62.7 | 5.4 | 7.9 | 21.5 |
| 最小値 | △11.3 | △16.0 | △12.4 | △19.4 | △5.5 | △6.1 | △8.8 |
| 平均値 | 3.6 | 6.8 | 15.0 | 5.9 | △0.6 | 3.0 | 3.5 |

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年10月から2023年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX、配当込）

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ヘッジなし、円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数（TOPIX、配当込）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社J P X総研又は株式会社J P X総研の関連会社に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ヘッジなし、円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年10月12日現在)

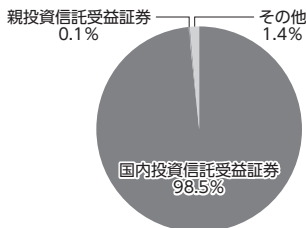
○組入上位ファンド

| 銘柄名 | 第196期末 |
|----------------------------|--------|
| | % |
| ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA | 98.5 |
| マネー・オープン・マザーファンド | 0.1 |
| 組入銘柄数 | 2銘柄 |

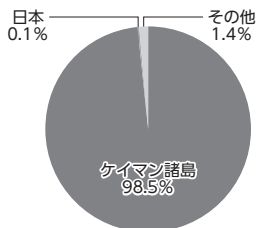
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

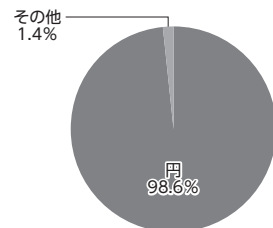
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍（邦貨建）の受益証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

| 項目 | 第191期末 | 第192期末 | 第193期末 | 第194期末 | 第195期末 | 第196期末 |
|------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | 2023年5月12日 | 2023年6月12日 | 2023年7月12日 | 2023年8月14日 | 2023年9月12日 | 2023年10月12日 |
| 純資産総額 | 9,558,789,443円 | 9,875,795,584円 | 9,886,757,574円 | 10,003,143,315円 | 9,857,935,012円 | 9,823,905,695円 |
| 受益権総口数 | 41,000,993,785口 | 40,275,829,358口 | 39,740,326,078口 | 39,087,767,116口 | 38,732,550,245口 | 38,402,679,306口 |
| 1万口当たり基準価額 | 2,331円 | 2,452円 | 2,488円 | 2,559円 | 2,545円 | 2,558円 |

(注) 当作成期間（第191期～第196期）中における追加設定元本額は598,788,079円、同解約元本額は3,833,461,480円です。

組入上位ファンドの概要

ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA

【基準価額の推移】

(2022年3月1日～2023年2月28日)



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2022年3月1日～2023年2月28日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2023年2月28日現在)

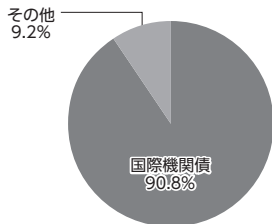
| | 銘柄名 | 業種／種別等 | 通貨 | 国(地域) | 比率 |
|-------|----------------------|--------|-----------|-------|-----|
| | | | | | % |
| 1 | IBRD 0% 10-Jul-24 | 国際機関債 | メキシコペソ | 国際機関 | 8.0 |
| 2 | IBRD 2.9% 22-Dec-23 | 国際機関債 | コロンビアペソ | 国際機関 | 6.5 |
| 3 | IBRD 0% 30-Apr-24 | 国際機関債 | メキシコペソ | 国際機関 | 6.4 |
| 4 | IBRD 6% 16-Jan-25 | 国際機関債 | インドルピー | 国際機関 | 6.0 |
| 5 | IBRD 5.7% 07-Feb-25 | 国際機関債 | チリペソ | 国際機関 | 5.8 |
| 6 | IBRD 0.33% 25-Jun-25 | 国際機関債 | ポーランドズロチ | 国際機関 | 5.3 |
| 7 | IBRD 4.3% 13-Sep-23 | 国際機関債 | インドネシアルピア | 国際機関 | 5.0 |
| 8 | IBRD 0.05% 27-Jul-23 | 国際機関債 | ポーランドズロチ | 国際機関 | 4.3 |
| 9 | IBRD 0% 30-Jun-25 | 国際機関債 | ブラジルレアル | 国際機関 | 4.3 |
| 10 | IBRD 0% 20-Jun-24 | 国際機関債 | 南アフリカランド | 国際機関 | 4.1 |
| 組入銘柄数 | | | | 30銘柄 | |

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

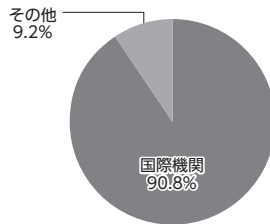
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

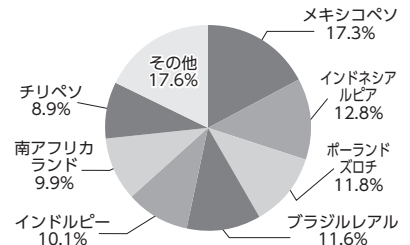
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



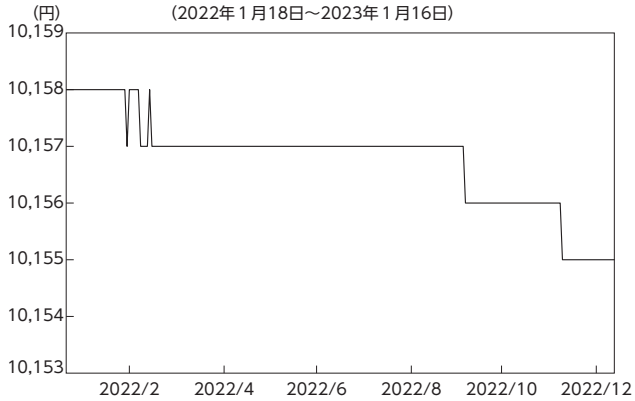
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・オープン・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2022年1月18日～2023年1月16日)



【1万口当たりの費用明細】

(2022年1月18日～2023年1月16日)

該当事項はございません。

組入資産の内容

(2023年1月16日現在)

2023年1月16日現在、有価証券等の組入れはございません。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

寄付についてのご報告

「世界銀行債券ファンド（毎月分配型）＜愛称 ワールドサポーター＞」は、2023年10月12日に第196期の決算を迎えました。

目論見書記載の通り、当ファンドでご負担いただいた当期間の信託報酬のうち、日々の純資産総額に年率0.05%を乗じた金額、総額2,475,582円を、国際開発協会（International Development Association、通称IDA：アイダ）に寄付させていただきます。ワールドサポーターを通じたこれまでの寄付金の総額は累計で、551,088,992円となっています。

IDAは、世界銀行の名で知られる国際復興開発銀行（IBRD）の姉妹機関として1960年に設立されました。途上国の中でも特に貧しい国々を支援するため、経済成長の促進、不平等の是正、生活水準向上等を実現すべく超長期で無利子の融資や贈与を行なっています。

日興アセットマネジメントは、今後もワールドサポーターを通じて、世界の子どもたちに笑顔をもたらす新興国支援の取組みを応援してまいります。

引き続きワールドサポーターをみなさまの資産形成のツールとして未長くご愛顧いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。